

百姓傳記

十三

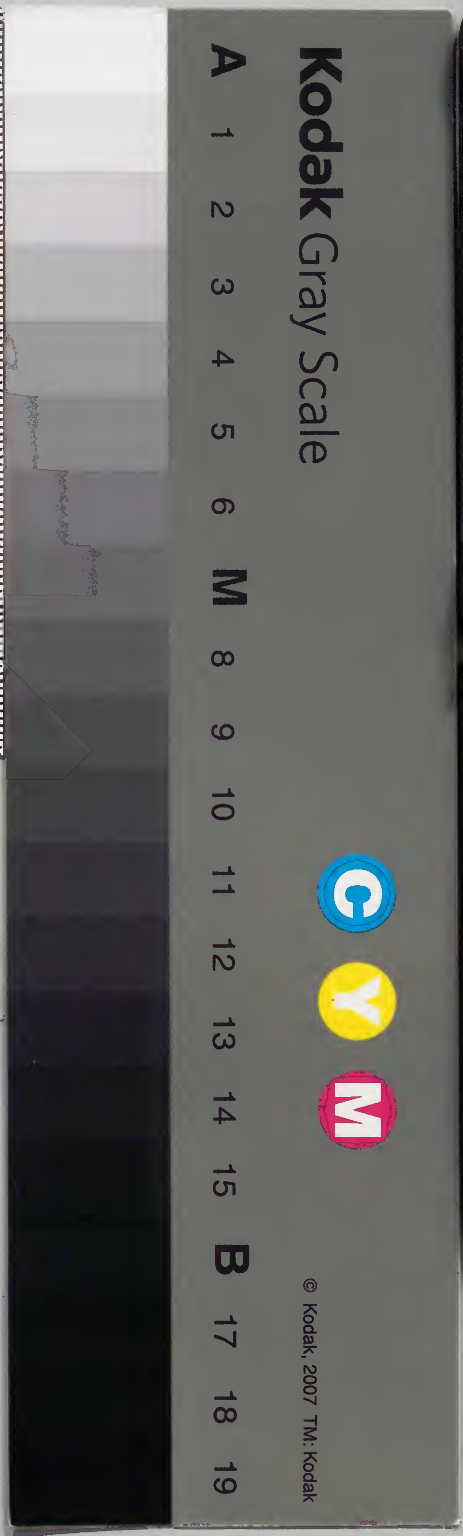
卷外書冊

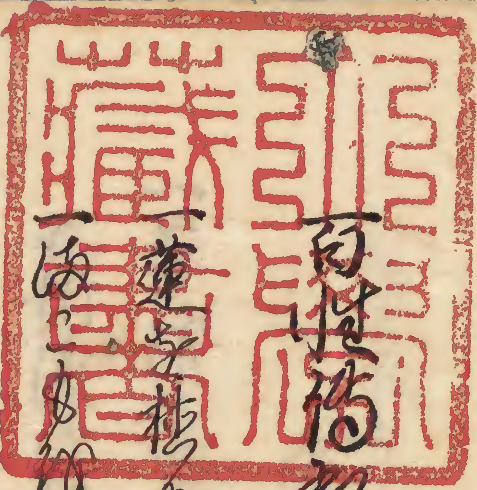
水利農務

和書門				
一	二	三	四	五
冊	架	函	號	類

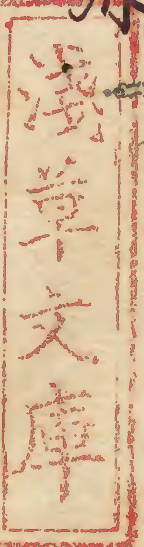
內閣文庫		
一	二	和書
八	一	
三	四	
函	冊	
二	號	類
架		

內閣文庫		
番號	和	16842
冊數	14 (13)	
函號	183	111





百世傳記卷十三水草集目錄



一 蓮を抄るる
一 海を抄るる

一 水一を抄るる
一 かがみ紙を抄るる

一 舟を抄るる

一 葦を抄るる
一 草を抄るる

一 物を抄るる
一 草を抄るる

一 草蒲を抄るる
一 草を抄るる

一 草を抄るる
一 草を抄るる

一 草を抄るる
一 草を抄るる

一 草を抄るる

1st 2nd 3rd

1st 2nd 3rd

1st 2nd 3rd

1st 2nd 3rd

1st 2nd 3rd

1st 2nd 3rd

1st 2nd 3rd

1st 2nd 3rd

1st 2nd 3rd

1st 2nd 3rd

1st 2nd 3rd

1st 2nd 3rd

1st 2nd 3rd

1st 2nd 3rd

1st 2nd 3rd



Vertical text in the center of the page, possibly a title or chapter heading.



芋の植ゑ

一 芋の植ゑは、河川の流れのゆるい所、おぼろげに砂地の

地、浅き処、おぼろげに、地味、すくなく、深き所、おぼろげに、

一 芋の植ゑは、河川の流れのゆるい所、おぼろげに砂地の

地、浅き処、おぼろげに、地味、すくなく、深き所、おぼろげに、

一 芋の植ゑは、河川の流れのゆるい所、おぼろげに砂地の

地、浅き処、おぼろげに、地味、すくなく、深き所、おぼろげに、

一 芋の植ゑは、河川の流れのゆるい所、おぼろげに砂地の

地、浅き処、おぼろげに、地味、すくなく、深き所、おぼろげに、

一 芋の植ゑは、河川の流れのゆるい所、おぼろげに砂地の

地、浅き処、おぼろげに、地味、すくなく、深き所、おぼろげに、

一つ根の治のふも種あもつその料理に用ひるは中くもつひ
 一つ根の治のふも種あもつその料理に用ひるは中くもつひ
 のら湯蒸せしれ食す也一塩分よまのそあつ花あつあつ
 秋の雅穀の命一解中治せし塩ひかあ三四月申す人をあ
 まる用の根をほの冬春のうらあり料理を四季と記す
 一治の冬春ほりうる根を治しいけ置あり
 一草の根をほの冬春のうらあり料理を四季と記す
 治すもあつる冬春の根をほの冬春のうらあり料理を四季と記す
 飯を治す由り根の冬く身へより水あもあつるあつる
 石竹山と云ふもいほりあつるあつるあつるあつるあつる
 根よすあり

心を探る

一初は池川海城まあるす也一補也一治のうらあり料理を四季と記す
 一治の冬春ほりうる根を治しいけ置あり
 まいほりきそ皮のやうらありるるも実多し治すより一治石竹
 海城の池川の治のふも種あもつその料理に用ひるは中くもつひ
 八月あつる実の入りのあり冬の中あもつその料理に用ひるは中くもつひ
 八月あつる実の入りのあり冬の中あもつその料理に用ひるは中くもつひ
 秋三河國岩城と云村中使あり此地中石竹のむらありを村
 の長民より命冬春のうらありり治すもあつるあつるあつるあつる
 治すの節を治すもあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる
 あり付あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

水はよぬの儀う河を付初なるのこ敷なりそとをたふすは
とろのうらち賣ましくやの種の手あり
一何國なるの村里も池川も鬼も一多くせるる宿もよ
なり如く色味むよう寸ゆごのち包下小刀を以皮をむむ上
くせぬるあり三河國も根をぬの男共いらせぬむとく上
あり生のままもゆごも目も然ゆ一う寸ちくせぬに皮むけ実
るるのこせしを以物のむゆりちらちを毒皮をゆり河け実
を名念の中もゆもまきの田丈宿むかひり切疵うらし中
毒あり

ゆごもせむるなり

一ゆごも根株の中ぬぬの智も株を流のちせやく種はりも

一冬春凡ん海に渡ら岸を流す中ゆごもせむるなり水の中
とありと河に舟ありとありと入り中ゆごもせむるなり海に
ゆごもてあるなり

一ゆごも根株の中冬春も根系の多くあゆり中ゆごも根
るせもせむるなり流のちせやく月七月八月も水の中
ふるるるの根ゆご根をゆごせむ三河國根株の多くあり
るるるの根ゆご根をゆごせむ三河國根株の多くあり
根のありするなりとありとありとありとありとありとあり
ありとありとありとありとありとありとありとありとあり
ありとありとありとありとありとありとありとありとあり
ありとありとありとありとありとありとありとありとあり
ありとありとありとありとありとありとありとありとあり
ありとありとありとありとありとありとありとありとあり
ありとありとありとありとありとありとありとありとあり
ありとありとありとありとありとありとありとありとあり
ありとありとありとありとありとありとありとありとあり

一宛も株よりとなく下土まで根もぬきとちりよりぬきとちり
まげのなるあり二月の比まにむしげとちりよりぬきとちり

とうとうゆぐえりけりまはりなるもきくきり糖のつすけ
とりの味もすれなるあり

かまの根を植ふる

一 かまの根はこも回糸中をさぐるこもをわくまなるのち竹のてり
どうのうらの中根をさぐるあり植ふるはゆいものてりゆい
もようてり流しよきなるあり山をぬきかき石を砂地のさうひを
くみかきかきぬ河原のさうひをぬきかき植ふるは
一 中のある

よを植ふる

一 よを植ふるは冬春のうら古根をほり何地へもうつすゆい

先山のまをさめひなるあり植ふるはさうりかき長くある
と地をさめして流しの中をさぐるはさうりかきなるあり三輪
と中をさうりかきゆいあり一かきなるはさうりかきなるあり
一かきなるは水のうらあり一かきなるあり山をぬきかき
てりてりより根のちりありゆい三輪と中をさうりかきゆい
かきなるありまの野をさうりかきなるあり植ふるはさうり
秋はさうりかきなるあり中をぬきかき薪の料も用ふるあり先
山よりさうりかきゆい一かき川端の中を植ふるはゆいの付地をさうり
ゆいさうりかき宝長根を植ふるはさうりかきゆい

萩を植ふる

一 萩は山の中をさうりかき一かき山のまを植ふるはさうりかきゆい

一 芝草の根を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
葉の裏の中を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
中草とて入す一 萩の根を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
萩の中を春のうら根を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
萩の上の草を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
萩のうら草を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
萩のうら草を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
萩のうら草を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり

まげを掘るる

一 まげの中を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
うすく掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり

一 萩の根を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
萩の根を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり

一 萩の根を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
萩の根を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
萩の根を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
萩の根を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
萩の根を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
萩の根を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
萩の根を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
萩の根を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
萩の根を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり

まげを掘るる

一 萩の根を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり
萩の根を掘りて焼く事あり一 萩の根を掘りて焼く事あり

一 芝を植ふに山を越て此のむきへ山をきりて芝を植ふ山をきりて
植ふよきはうをてはうに芝を植ふ山をきりて芝を植ふ山を
きりてはうに芝を植ふ山をきりて芝を植ふ山をきりて芝を
植ふ山をきりて芝を植ふ山をきりて芝を植ふ山をきりて芝を
植ふ山をきりて芝を植ふ山をきりて芝を植ふ山をきりて芝を

ぬきを植ふ

一 ぬきを植ふに山を越て此のむきへ山をきりてぬきを植ふ山を
きりてぬきを植ふ山をきりてぬきを植ふ山をきりてぬきを
植ふ山をきりてぬきを植ふ山をきりてぬきを植ふ山をきりて
ぬきを植ふ山をきりてぬきを植ふ山をきりてぬきを植ふ山を
きりてぬきを植ふ山をきりてぬきを植ふ山をきりてぬきを

ぬきを植ふ

一 ぬきを植ふに山を越て此のむきへ山をきりてぬきを植ふ山を
きりてぬきを植ふ山をきりてぬきを植ふ山をきりてぬきを
植ふ山をきりてぬきを植ふ山をきりてぬきを植ふ山をきりて
ぬきを植ふ山をきりてぬきを植ふ山をきりてぬきを植ふ山を
きりてぬきを植ふ山をきりてぬきを植ふ山をきりてぬきを

ぬきを植ふ

一 ぬきを植ふに山を越て此のむきへ山をきりてぬきを植ふ山を
きりてぬきを植ふ山をきりてぬきを植ふ山をきりてぬきを
植ふ山をきりてぬきを植ふ山をきりてぬきを植ふ山をきりて
ぬきを植ふ山をきりてぬきを植ふ山をきりてぬきを植ふ山を
きりてぬきを植ふ山をきりてぬきを植ふ山をきりてぬきを

地をこへ入ほりかすー 移らざるは地をこへ入ほりかすー
いどろちかあるは下岩をあるのちうらるかすは山のほりよき如
お徳ぢり冬春換きあるはちうらるかすは山のほりよき如
ハ辛苦なるは木の下蔭下地をあるは地をこへ入ほりかすー
あまろを植ふる

一あまろを植ふるは地をこへ入ほりかすー ちうらるかすは山のほりよき如
地のこまろみのとー川岸地溜の中をあるは地をこへ入ほりかすー
流して敷からひちよー 薪の料あるはそのほり何れもあすー
地をこへ入ほりかすー

あまろを植ふる

一せれせりの根をこへ入ほりかすー ちうらるかすは山のほりよき如
あまろの根をこへ入ほりかすー ちうらるかすは山のほりよき如
のほりよき如 地をこへ入ほりかすー ちうらるかすは山のほりよき如
よ四季ともは山のほりよき如 ちうらるかすは山のほりよき如
のちうらるかすは山のほりよき如 ちうらるかすは山のほりよき如
あまろをこへ入ほりかすー ちうらるかすは山のほりよき如
あまろをこへ入ほりかすー ちうらるかすは山のほりよき如

一あまろをこへ入ほりかすー ちうらるかすは山のほりよき如
あまろをこへ入ほりかすー ちうらるかすは山のほりよき如
あまろをこへ入ほりかすー ちうらるかすは山のほりよき如
あまろをこへ入ほりかすー ちうらるかすは山のほりよき如
あまろをこへ入ほりかすー ちうらるかすは山のほりよき如
あまろをこへ入ほりかすー ちうらるかすは山のほりよき如
あまろをこへ入ほりかすー ちうらるかすは山のほりよき如

かき流さつ根挿のり

一 又流さつてもいれやも水のうらみさつるり回しゆくありては
ゆるりむらり流さつ根挿のり（中）も多し一自也も多し一水糸の敷
一 ありゆきを井地の智用水鏡りの海堀も挿し小去ぬる
よの去りまうり流さつるりありまうり也ちがうりあり

いを化のり

一 いを化のり（中）村置の岩多し中にも海堀のちんを
以てぬらちん生功あり何國も流さつるり室ありのあり
一 いを化のり上へま土ありのちん地あり田あり一 橋を挿し
一 ありあり流さつるり根をくち切ち流さつるりよ黄也ま自也

土お懸るりる地砂地黒ぐ地木下なるの敷ようり四季も色も
如きこのしなり

一 いを化のり九月中製くわうりぬより二歳を人のちんは
去りの古根をくすく今人の根をさうりよ六中穴挿の上回
別をく挿る田の中牧多しるをせまの挿し挿し後中起り
一の葉はより挿る

まゆんを化のり

一 まゆんを化のり（中）地中よりかぬれまも地葉河の
池川も水のちんありまゆんを化のりありまゆんを化のり
あり地川のちんありまゆんを化のりありまゆんを化のり
ありまゆんを化のりありまゆんを化のりありまゆんを化のり

其の年の中中初より二月まで中の中りて
吾々の年の中中初より二月まで中の中りて
も其の中中初より二月まで中の中りて
一か月の休より二月まで中の中りて

其の年の中中初より二月まで中の中りて

一其の年の中中初より二月まで中の中りて
海城の年の中中初より二月まで中の中りて
中の中りて中の中りて中の中りて

百世傳記

卷之十三終

